甚長、其後葉間擡レ莖開二紫花一、結二三瓣蒴兒一、中有レ子、如二芥子大一、茶褐色、味甘、是其細葉者、本草綱目所レ云紫花地丁也、李時珍曰、紫花丁、其葉似レ柳而微細、夏開二紫花一、結レ角、平地生者起レ莖、溝壑邊生者起レ蔓、是也、須美禮依二輔仁一、

〔下學集草木〕菫菜（スミレ）

〔書言字考節用集六生植〕菫（スミレ）苦菫、旱芹、菫葵並同、本草（スマウトリグサ）葉如二細柳一、花紫色、子如レ米、

〔八雲御抄三草上〕菫菜　つぼ　又唯すみれ　野又あれたる所につむ也

〔東雅十三穀蔬〕菫菜スミレ　倭名鈔に本草を引て、菫菜はスミレ、俗謂二之菫葵一と註せり、其義不レ詳、爾雅に藿は苦菫也といふ註に菫葵は、本草に言二味甘一、而此云二苦菫一、古人語倒、猶二甘草一謂レ之大苦一也と見えたり、さらば此にもスといひしは酸也、醋を苦酒といふが如し、ミレといひしは、ニレの轉語にして、其性の滑る事の楡の如くなるを云ひしなるべし、内則に菫荁粉楡とも見え、洪舜俞が賦にも、烈有二椒桂一、滑有二菫楡一と見えたり、

〔物類稱呼三生植〕菫すみれ　畿内、及近江、加賀、能登、又東海道筋すべてすまふとりぐさと云、江戸にてすみれと云、上野にてすまふばな、仙臺にてかぎばなと云、大和の奈良小兒、治郎坊太郎坊と云、西國にてとの丶馬と云、菫一名こまひき草といふ、漢名剪刀草、花紫白二色有、共に莖のかたはらに鉤の形あり、兩花まじへ相ひきて、小兒のたはふれとす、故にすまふとりぐさの名有、又東武にてすまふとり草と稱する別種有、江戸鄙（いなか）にてはぐさとよぶ、草の穗に出たるを云、漢名不レ知、尾州にてやつまたといふ是也、眞砂が足を空なるすまふとり草と聞えし附句も、むかしがたりとなりぬ、

〔年々隨筆一〕すみれ二種あり、いづれもよろし、葉の細くてながきが殊によろし、ひろくて短きは色あさし、これをつぼすみれ也といふ人もあり、さる事にや、つぼすみれ、すみれもと一品にて、此